

市立福知山市民病院総合内科で下気道感染症（肺炎など）、尿路感染症で入院治療を受けた患者様・ご家族の皆様へ

## 高齢者の下気道感染症及び尿路感染症に関する調査研究へのご協力 のお願い

市立福知山市民病院総合内科では、下気道感染症や尿路感染症の治療を主な目的として入院された患者様の大部分の入院加療を担当しており、これらには高齢の患者様が多く含まれています。これらの患者様を対象とした調査研究への御協力をお願いいたく存じます。

### 研究の背景

#### I. 下気道感染症（主に肺炎など）

- 1) 高齢者の肺炎などの下気道感染症には誤嚥が関係することが多く、70 歳以上の肺炎の 70%以上で誤嚥が関与しています。肺炎の予防には、口腔ケア、食形態の工夫や摂食時のポジショニングなどへの配慮が重要です。しかしながら、どのような方に対して嚥下機能や食形態などに留意し誤嚥性肺炎の発症に注意すべきかを、ご家族様や介護職員などの非医療者の方が容易に見つけ出す方法についての報告は少ないのが現状です。
- 2) レジオネラ肺炎は、市中肺炎と似た経過を取る場合がありますが、一般的な市中肺炎で使用するものとは異なる抗菌薬を使用して治療する必要があります。レジオネラ肺炎では、血清リン値が顕著に低下している可能性が示唆されています。しかしながら、レジオネラ肺炎の患者様の入院時の血清リン値が、その他の細菌性肺炎と比較して低いことについて、本邦では十分には調査されていません。

#### II. 尿路感染症

近年、いわゆる耐性菌の一種である基質拡張型ベータラクタマーゼ（以下 ESBL）産生菌が問題となっています。本邦でも、市中発症の尿路感染症患者における ESBL 産生菌の検出率が年々増加しています。ESBL 産生菌の感染には、患者様の過去の抗菌薬使用などの影響が指摘されていますが、地域基幹病院である当院での尿路感染症の入院患者様について、ESBL 産生菌に対する危険因子（背景因子）は明らかではありません。

### 研究の目的

上記の背景を鑑みて、今回の調査研究は、下記の目的のために実施します。

#### I. 下気道感染症

- 1) 臥床時に下顎の位置が落ちて容易に動くか否かが、摂取可能な食形態に影響するかどうかを評価すること
- 2) 高齢者の日常的な開口状態と肺炎の関連性について検討すること
- 3) レジオネラ肺炎患者の入院時の血清リン値が非レジオネラ肺炎患者と比べて低いことを評価すること

## II. 尿路感染症について

尿路感染症における ESBL 産生菌の危険因子（背景因子）を明らかにすること

### 研究の方法

・対象となる患者様

- ① 2014 年（平成 26 年）8 月 1 日から 2015 年（平成 27 年）7 月 31 日までの間に、市立福知山市民病院総合内科に肺炎または尿路感染症の治療を主たる目的として入院された患者様
- ② 2010 年（平成 22 年）1 月 1 日から 2018 年（平成 29 年）12 月 31 日までにレジオネラ肺炎として入院加療された患者様。

但し、院内でそれぞれの疾患を発症された方は除外します。①に該当する方が約 350 人、②該当する方が 15 人程度おられます。

・研究方法

過去に市立福知山市民病院総合内科にて入院加療を受けられた患者様の診療等を調査させていただきます。対象患者様の臨床情報（年齢・性別・過去の病歴等）、診察所見、血液検査所見などを抽出して統計処理を行います。抽出された情報は、個人情報 を消去し匿名化します。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することが可能です。ご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合で、情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、平成 30 年 10 月 15 日までに下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、研究への登録を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、市立福知山市民病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

研究責任者・連絡先：

市立福知山市民病院大江分院

分院長 和田幹生 電話：0773-56-0138（代表）